

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531050

研究課題名(和文) 若年ホームレスの生活支援と就労意欲の醸成のためのシステム構築に関する研究

研究課題名(英文) Research on System Construction for Livelihood support for Young Homeless and Creation of Will to Work

研究代表者

野依 智子 (NOYORI, TOMOKO)

福岡女子大学・国際文理学部・教授

研究者番号：40467882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、若年ホームレスの生育家族に着目し、生育家族との関係性を明らかにした上で、彼/彼女らの生活支援と就労意欲の醸成のためのシステムの構築を目的とした。分析方法は、生育家族との関係と職歴ごとの家族構成や家族関係について調査した。さらに、若年ホームレスと中高年ホームレスの比較を行った。結果、若年/中高年ホームレスともに両親に育てられたケースが少なかったが、中高年の方が、両親・兄弟姉妹との関係が回復しているケースが多かったことから、若年の方が生育家族との関係は希薄であることが明らかになった。このことから、若年ホームレスの就労意欲の醸成には、家族支援が必要であるといえる。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on families in which young homeless people were born and raised and shows the relationship between such young homeless people and their families, and aims to establish a system to support their livelihood and enhance their motivation to work. Analysis methods included research into the relationships of families in which young homeless people were born and raised, and the composition and relationship of the respective families with respect to their careers. Furthermore, we made comparisons between young homeless people and middle-aged and older homeless people. Resultingly, there were fewer cases in which homeless people were raised by their parents with respect to both young people and middle-aged and older homeless people. However, a greater numbers of cases were found in which the relationship with parents and siblings had been restored with respect to middle-aged and older homeless people more than young homeless people.

研究分野：社会科学

キーワード：若年ホームレス 生育家族 家族支援 就労支援 社会的自立 家族賃金 生活支援 労働からの排除

### 1. 研究開始当初の背景

2004 (平成 16) 年施行の改正派遣労働法により、「物の製造の業務」にも派遣労働が適用されると、一挙に若年の派遣労働者が増加した。同時にこの頃から、20代・30代の若年ホームレスの姿が目につき始めた。さらに2008 (平成 20) 年秋、アメリカの住宅ローンの破綻、いわゆるリーマン・ショックにより、その年の年末には多くの「日雇い派遣」が解雇されるという事態が生じた。こうした事態をうけて、2008 (平成 20) 年末から2009 (平成 21) 年正月にかけて、「派遣村」という「派遣切り」にあった労働者の一時避難所が設置され、住居と就労をセットにした自立支援策がとられることとなったのだが、これ以降、若年ホームレスが増加している。

大阪市の自立支援センターによると、30代以下のホームレスは2006年度15.0%、2007年度18.9%だったのが、2009年度(2009年12月まで)では、33.2%である。また、東京都の自立支援センターでも、2007年度は18.9%だったのが、2009年度(2010年1月まで)では23.9%になっており、ホームレスの2~3割が若年、つまり20代・30代の若者が占めるようになったのである。

### 2. 研究の目的

本研究は、こうした近年のホームレス問題の特徴でもある若年ホームレスを対象に、彼/彼女らの「自立」のための生活支援と就労支援、とりわけ就労意欲の醸成に向けたシステムを考察・検討することを目的とした。

### 3. 研究の方法

若年ホームレスの路上にいたるプロセスを生育家族に着目して調査・分析することが、彼/彼女らの生活支援・就労支援のため

には不可欠である。

したがって、まず若年ホームレスの生育家族の構成・関係の程度をヒアリングする。次いで、50代・60代のホームレスを対象にヒアリングし、若年ホームレスと従来のホームレスの生育家族を比較することで、若年ホームレスの特徴を明確にする。

### 4. 研究成果

平成24年度は、北九州の若年ホームレスを対象に、彼/彼女らの生育家族の構成と家族関係の質、並びに職歴を中心にヒアリング調査を実施した。6月から翌年2月までに男性20名女性1名、あわせて21名にヒアリングした。平均年齢37.8歳。21名中、40代の6名は省いた。

学歴は、大学1名、大学中退1名、専門学校1名、高校8名、あわせて11名が高卒以上、職業訓練校1名、職業訓練校中退1名、高校中退1名、中学1名である。2007年に実施した50代・60代のホームレス調査(以下、2007年調査という)では、62名中高校25名、中学23名、職業訓練校6名、専門学校4名、高校中退2名、大学中退2名で、明らかに若年ホームレスは高卒が増加している。結婚歴については、15名中未婚が11名、離婚が3名、既婚1名(女性)。2007年調査では、未婚35名(56.5%)、離婚・死別27名(43.5%)で、年齢的なものもあるであろう、若年ホームレスは未婚者が多い。初職については、「正社員」が15名中9名、アルバイト・日雇い・見習いなどが6名である。2007年調査では、62名中45名(72.6%)が「正社員(常勤職員・従業員)」で、2007年調査の方が若年ホームレスより、「正社員」の率が若干高い。さらに、実際のヒアリング内容から、若年ホームレスでいう「正社員」は、時給制・日給制であったり、社会保険が一切ついていないケースもあった。

生育家族との関係については、18歳までに

両親が離婚・死別したケースは、15名中7名であった。これは、50代・60代ホームレスのおよそ2割をはるかに超える割合である。つまり、従来のホームレスに比べて、若年ホームレスの生育家族にはひとり親世帯や「両親ともいなかった」ケースが多いといえる。

以上のように、若年ホームレスは初職が不安定で生育家族も不安定な状況であることが明らかとなった。

平成25年度は、若年ホームレス調査と比較するために、50代・60代のホームレス(従来のホームレス)調査を行った。質問項目は、若年ホームレスと同様である。平均年齢67.1歳、男性10名、女性3名である。13名中12名が生活保護受給者で、1名(女性)がパート就労と並行しての半福祉半就労であった。

生育家族の構成においては、13名中8名が母子世帯・父子世帯で、若年ホームレスと同程度だが、生保受給後に家族関係を回復している点が、若年ホームレスとの違いである。また未婚数は、若年ホームレスが15名中11名が未婚であるのに対して、中高年は13名中2名であった。

このことから、若年ホームレスの就労支援、生活支援には家族関係の回復を視野にいれた家族支援が必要であることが明らかになった。

平成26年度は、ホームレスに寄り添った自立支援の事例調査として社会福祉法人グリーンコープ抱樸館福岡でのヒアリング調査、ならびに自立者の居場所づくりとしての「カフェ・さんぼみち」の参与観察を行った。結果、女性は離婚などによって家族との関係を喪失することが、ホームレス状態になる要因であることが改めて明らかになった。すなわち女性の一事例を示すと、中卒で非正規雇用の後結婚 離婚 臨時・アルバイトなどの不安定雇用 再婚 離婚 不安定就労というように4回の結婚と不安定就労の繰り返しによって生活を維

持してきた。つまり、結婚によって男性の被扶養家族になることによって生活を維持してきたのである。このことは、女性は離婚や死別などによって男性の被扶養家族でなくなった場合、ホームレス状態になる可能性が大きいことを示している。男性は失業という労働からの排除によってホームレスになるが、女性は家族からの排除によってホームレスになることが改めて明らかとなった。

以上の若年ホームレスや女性ホームレスへの調査研究から、今後の課題は、若年ホームレスの増加ならびに若年男性の非正規化にともなって可視化してきた若年女性の貧困に着目して、ホームレス状態にある若年女性の就労支援・生活支援・社会的自立に関するシステム構築を考察したい。そのためには、まず若年女性の貧困の実態を調査し、現状の支援システムの課題を整理したい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

野依智子、大学等における男女共同参画に関する調査研究の中間報告、NWEV 実践研究第4号、査読無、2014、78-92

野依智子、NPO で働く女性にみる「新しい働き方」、都市問題 105-1、査読無、2014、87-93

野依智子、若年ホームレスの生育家族と労働からの排除、労働の場のエンパワメント、日本の社会教育第57集、査読有、2013、118-129

野依智子、韓国における多文化家族支援の課題と可能性 - 政策・システム・支援プログラム -、NWEV 実践研究第3号、国立女性教育会館、査読無、2013、148-162

〔学会発表〕(計4件)

野依智子、福井県勝山織物産地における女性の労働と生活(4) - 既婚女工の就業を確保する保育を中心に -、日本労働社会学会第25回研究大会、2013年11月16日、東北福祉大学

野依智子、繊維女工の労働と育児 - 1950年代から 1960年代の福井県勝山市の機業を対象に -、日本社会教育学会第 60 回研究大会、2013 年 9 月 28 日、東京学芸大学

野依智子、大学における男女共同参画についてのアンケート調査報告、高知大学男女共同参画推進室講演会、2013 年 3 月 28 日、高知大学

野依智子、NPO 活動を通じた女性のキャリア形成の課題と可能性、日本 NPO 学会、2013 年 3 月 16 日、東洋大学

〔図書〕(計 2 件)

野依智子、女性研究者支援と男女共同参画推進のための基盤づくり、大学における男女共同参画ガイドブック、国立女性教育会館、査読無、2015、54 - 72

野依智子、寄り添うことを軸とした女性ホームレスへの支援、人間発達の地域づくり - 人権を守り自治を築く社会教育 -、査読無、2012、93 - 104

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

野依 智子 (NOYORI TOMOKO)

公立大学法人福岡女子大学・国際文理学部・教授

研究者番号：40467882